瀬戸臨海実験所年報　第 24 巻:　48, 2011

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ台風により一度に打ち上がった複数のクロチョウガイ

久保田　信

Some individuals of *Pinctada margaritifera* that washed ashore at a coast of “Kita-hama beach” of the Seto Marine Biologial Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan due to typoon

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（〒649-2211　和歌山県西牟婁郡白浜町 459）

熱帯系のクロチョウガイ *Pinctada margaritifera* (Linnaeus, 1758)が、白浜半島先端に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の北側にある通称“北浜”（砂浜部の長さは約 400 m）で、2007 年 5 月 1 日から 2010 年 12 月 31 日までの 3 年 7 か月間（43 ヶ月間）の期間中に打ち上がった計 15 個体を記録した（久保田, 2010)。その後も“北浜”や番所崎への本種の漂着は依然として稀なままであるが、今回、台風５号通過後に、一度に複数のクロチョウガイが珍しく打ち上がったので報告する。

漂着記録

2011 年 6 月 27 日に６個体のクロチョウガイが一度に“北浜”に打ち上がった（図１)。すべて両殻が揃っており、ごく小型のものから比較的成長したもので、最大個体は殻長 87 mm; 殻高 92 mm を記録した。内１個体は新鮮な軟体部が残存し（表面にザラカイメン付着: 図１上段)、他の５個体は内面の真珠光沢は多少薄れていた。

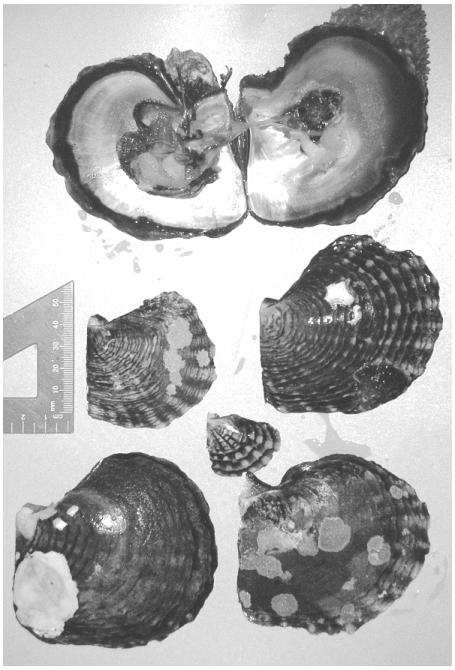

図 1. 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に 2011 年 6 月 27 日に打ち上がったクロチョウガイ

引用文献

久保田　信. 2010. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ最近の 43 ヶ月間（2007-2010 年）に打ち上がった熱帯系の２種の二枚貝.　京都大学瀬戸臨海実験所年報, 23: 67-69.